

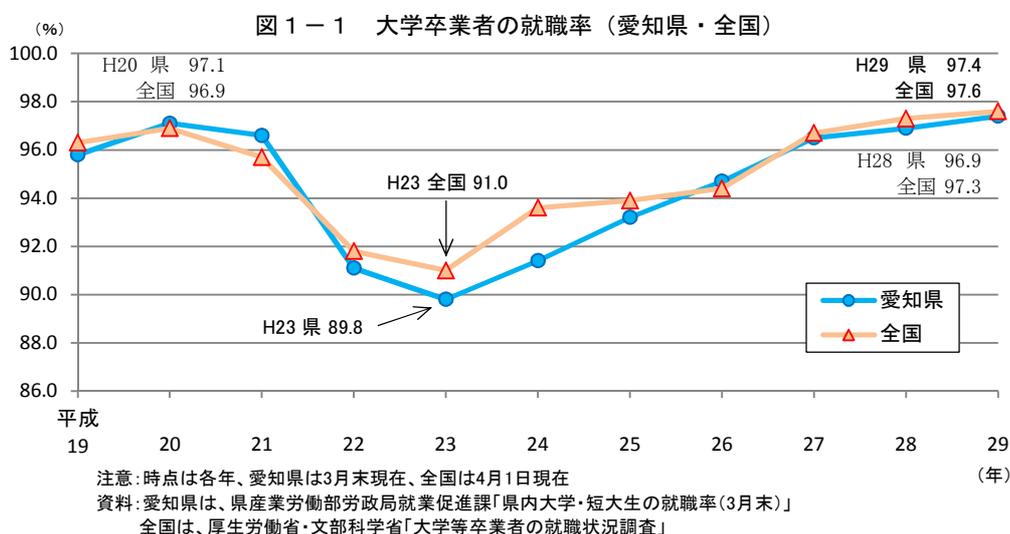
新卒者の就職率と初任給について

4月から新しい年度が始まり、新卒者が社会人として仲間入りしました。今の就職状況はどうなっているのか？そして、気になる初任給はいくらなのか？新卒者のうち、大学・高等学校の卒業生についてみてみたいと思います。

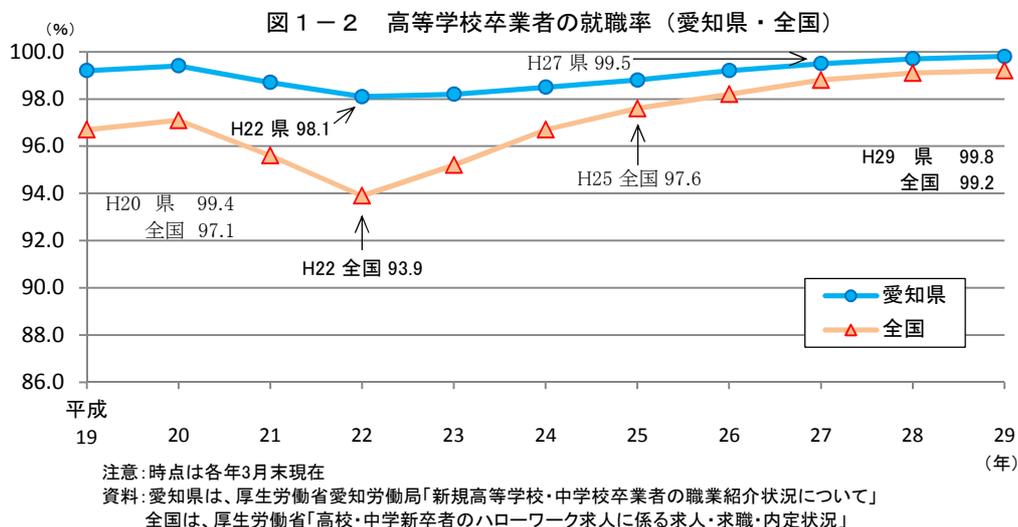
○就職率の推移（平成19年～平成29年 愛知県・全国）

大学や高等学校を卒業した学生、生徒の就職率（男女計）について、平成19年以降の推移を愛知県と全国（全国平均）で比較してみました。

まず大学卒業生では、愛知県、全国とも平成20年から平成23年にかけて、いわゆるリーマンショックによる景気後退により下降しましたが、その後は毎年上昇を続け、全国では平成28年に平成20年の結果を上回りました。また今年の3月には、全国では更に上昇したほか、愛知県でも平成20年の結果を上回りました。（図1-1）



また高等学校卒業生では、大学卒業生ほどの下降はないものの、平成22年まで下降した後、毎年上昇をしています。全国では平成25年に、愛知県では平成27年に平成20年の結果を上回りましたが、その後も上昇を続けています。（図1-2）

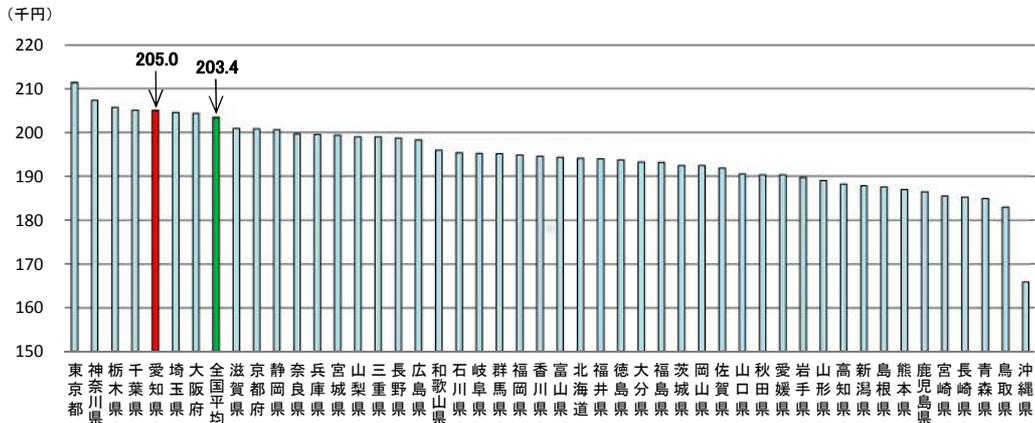


○都道府県別初任給額（平成 28 年）

平成 28 年の大学卒業者と高等学校卒業者の初任給額（男女計）を、都道府県別で比較してみました。

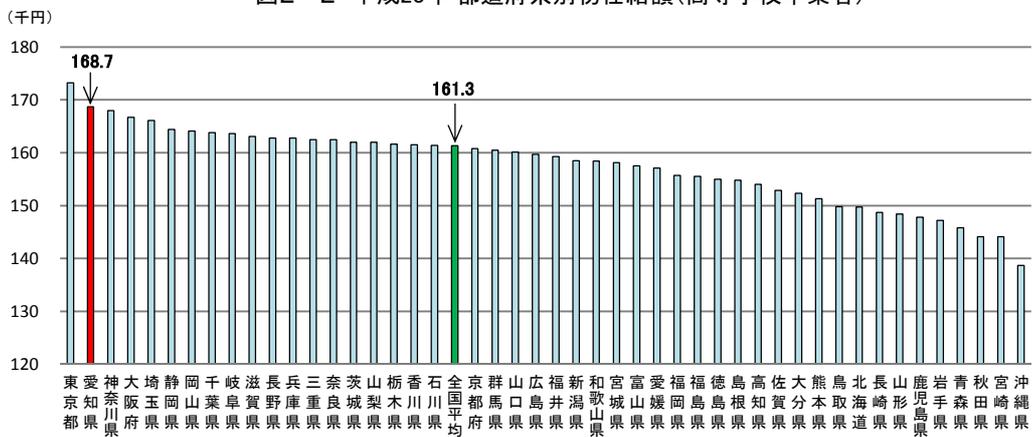
まず大学卒業者については、愛知県では 205.0 千円でした。これは都道府県別では 5 番目に高く、全国平均（203.4 千円）を 1.6 千円上回る結果でした。（図 2－1）

図2-1 平成28年 都道府県別初任給額(大学卒業者)



また高等学校卒業者については、愛知県では 168.7 千円でした。これは都道府県別では 2 番目に高く、全国平均（161.3 千円）を 7.4 千円上回る結果でした。（図 2－2）

図2-2 平成28年 都道府県別初任給額(高等学校卒業者)



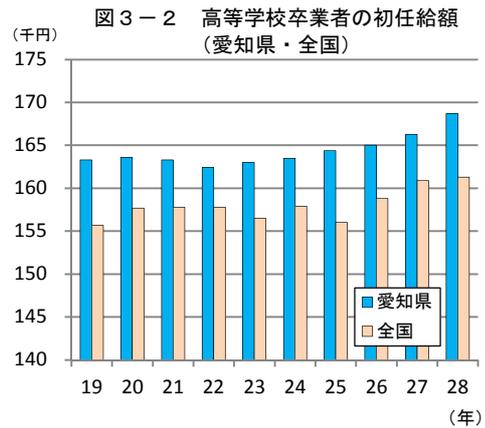
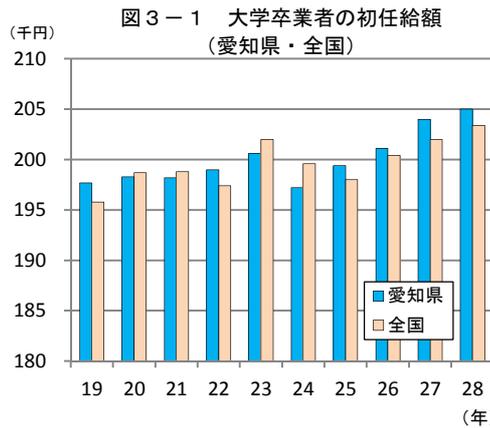
資料：図2-1、図2-2はいずれも、厚生労働省「平成 28 年賃金構造基本統計調査(初任給)」

○初任給額の推移（平成 19 年～平成 28 年 愛知県・全国）

平成 19 年から平成 28 年までの大学卒業者と高等学校卒業者の初任給額（男女計）の推移を、愛知県と全国（全国平均）で比較してみました。

まず大学卒業者については、各年、愛知県と全国とでは若干の差はありますが、金額としてはほぼ同じ位で推移しています。（図 3－1）

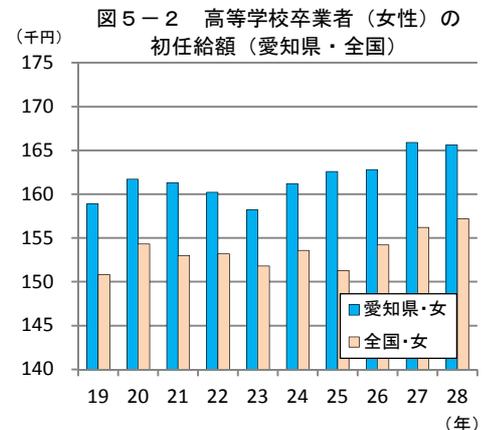
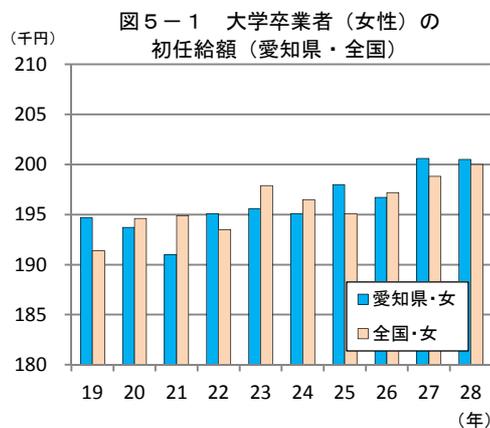
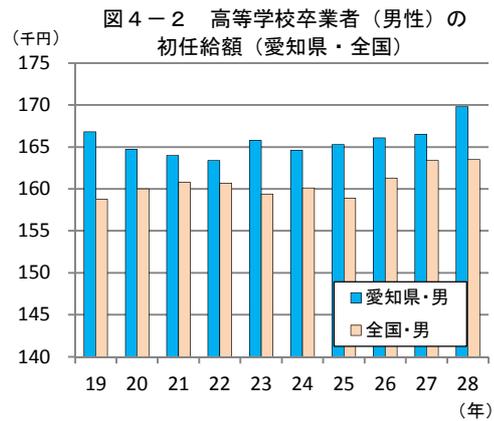
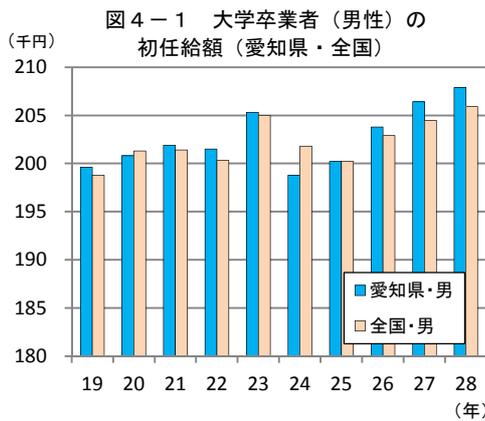
また高等学校卒業者については、各年とも愛知県が全国よりも 5～8 千円程度上回っている状況です。（図 3－2）



○男性、女性別初任給額の推移（平成19年～平成28年 愛知県・全国）

次に、大学卒業者と高等学校卒業者の初任給額の推移を男女別で、愛知県と全国（全国平均）について比較をしてみました。

金額の傾向については男女計と同様となっており、大学卒業者では愛知県と全国ではさほど差はありませんが、高等学校卒業者では愛知県が全国を上回る傾向にあります。（図4-1、4-2、5-1、5-2）

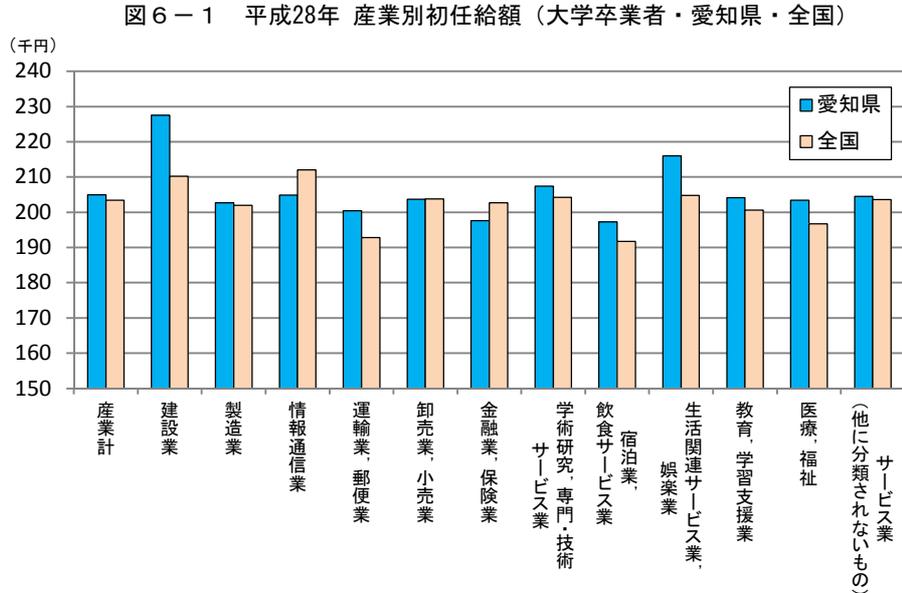


資料：図3-1から図5-2まではいずれも、厚生労働省「賃金構造基本統計調査（初任給）」

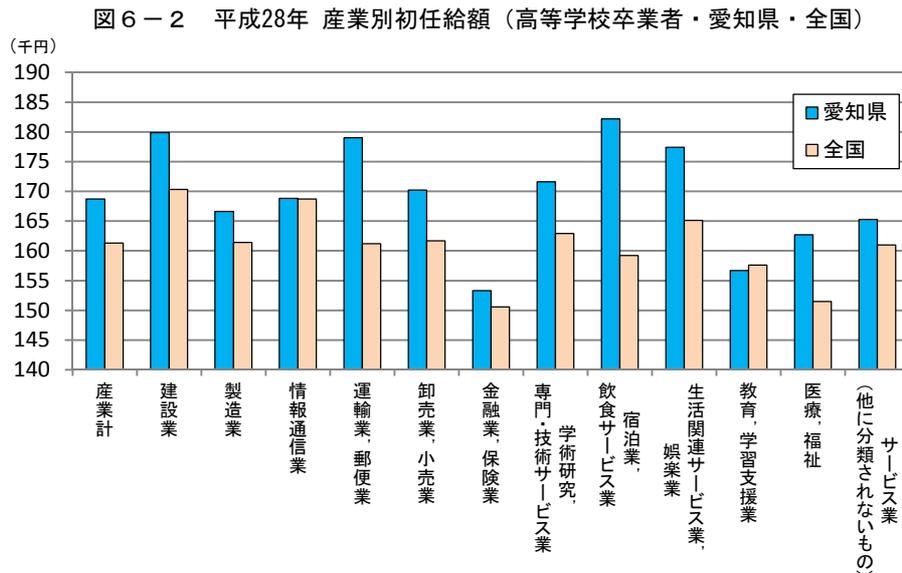
○産業別初任給額（平成 28 年 愛知県・全国）

平成 28 年の大学卒業者と高等学校卒業者の初任給額（男女計）を産業別で、愛知県と全国（全国平均）で比較してみました。

大学卒業者における愛知県の特徴としては、「建設業」で 17.3 千円、「生活関連サービス業、娯楽業」で 11.2 千円、全国を上回りましたが、「情報通信業」では 7.1 千円、「金融業、保険業」では 5.1 千円、全国を下回る結果となりました。（図 6－1）



また高等学校卒業者においては、「宿泊業、飲食サービス業」で 23.0 千円、「運輸業、郵便業」で 17.8 千円、「生活関連サービス業、娯楽業」で 12.3 千円、全国を上回りましたが、「教育、学習支援業」では 0.9 千円、全国を下回る結果となりました。（図 6－2）



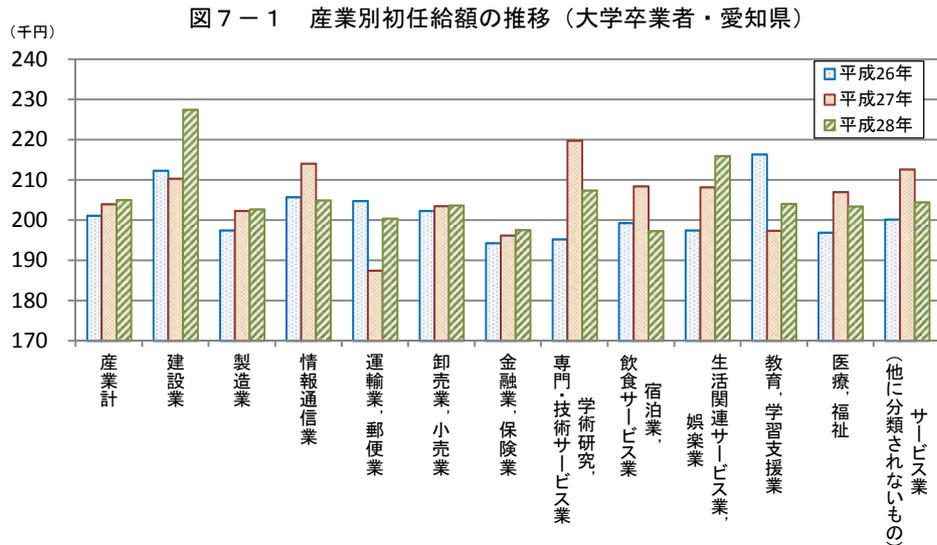
注意：産業計には、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「不動産業、物品賃貸業」、「複合サービス事業」を含む。

資料：図6-1、図6-2はいずれも、厚生労働省「平成 28 年賃金構造基本統計調査（初任給）」

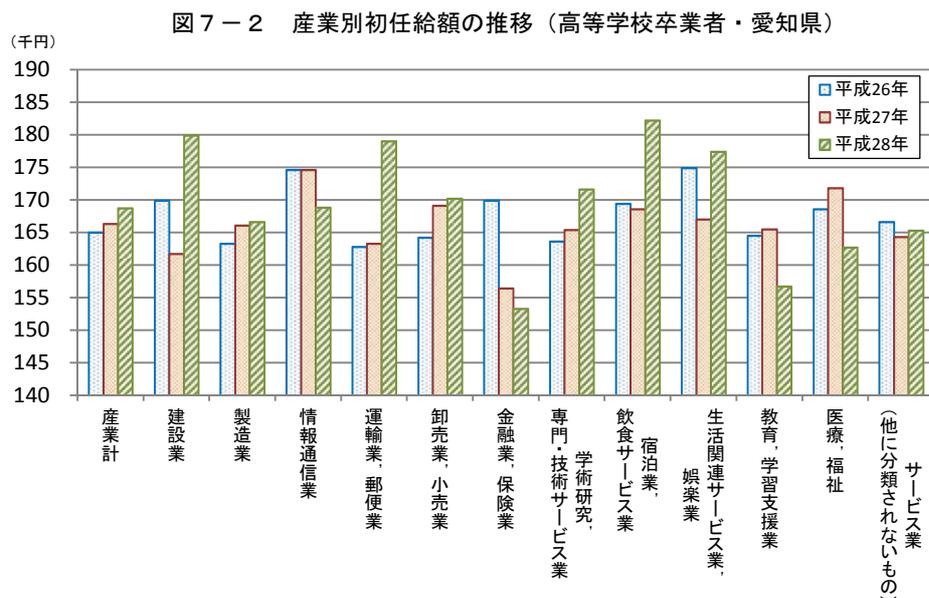
○産業別初任給額の推移（平成26年～平成28年 愛知県）

平成26年から平成28年の3年間について、愛知県の大学卒業者と高等学校卒業者の初任給額（男女計）の推移を産業別で調べてみました。

まず大学卒業者では、平成28年は平成26年に比べ、産業全体では3.9千円増加しました。また、特に増減のあった産業は、「生活関連サービス業、娯楽業」で18.5千円、「建設業」で15.2千円増加しましたが、「教育、学習支援業」では12.3千円の減少となりました。（図7-1）



また高等学校卒業者では、産業全体で3.7千円増加しました。特に増減のあった産業は、「運輸業、郵便業」で16.2千円、「宿泊業、飲食サービス業」で12.8千円、「建設業」で10.0千円増加しましたが、「金融業、保険業」では16.6千円の減少となりました。（図7-2）



注意：産業計には、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「不動産業、物品賃貸業」、「複合サービス事業」を含む。

資料：図7-1、図7-2はいずれも、厚生労働省「賃金構造基本統計調査（初任給）」